

編集後記

早稲田大学イタリア研究所が発行する『研究紀要』第10号をお届けします。コロナが猛威を振るう中であって一つの節目となる第10号を刊行できたことは、関係者一同にとって、大いなる喜びです。コロナの感染が世界中で蔓延する状況の下で、世の動きとは直接関係のない、不要不急とも言うべきイタリア研究に落ち着いて取り組んでくれる人がいるか心配していましたが、昨年7月には例年並みの9件の投稿申し込みがあり、10月の締め切りまでに6本の原稿が寄せられました。いずれも高い水準のもので、3本を論文として、3本を研究ノートとして掲載することができました。内容も多岐にわたっていて、我が国のイタリア研究の発展に資するところ大であると自負しています。

コロナの影響によりオンライン授業などで多忙をきわめていたにもかかわらず、丁寧な査読にあたってくださった方々には感謝にたえません。イタリア研究の灯を消してはならないという意識が皆の間で働いたのだと思います。

編集委員会

伊藤 拓真 奥田耕一朗 亀崎 勝 小林 勝 白崎容子 高橋利安
辻 昌宏 西村安弘 濱口オサミ 福山佑子 古田耕史 三森のぞみ